

今福線案内マップの作成

河野 靖彦

1. はじめに

今福線の研究も3年目に入った。当初、どのような活動を行なっていくか不明確な研究会であったが、2年間の活動で案内マップを作成するという目標が定まった。今年度はそれを完成させる年である。

6月に第1回の会合を行いマップの作成手順について話し合った。会長の嘉藤さんがマップの素案を作成することに決まり、9月にはその素案が出来上がったのである。

2. マップを作ろう

マップ作りは昨年の会合の時、小村さんが提案され、ほぼ全員が賛同したことに始まる。その時、私が持ち合わせていた旧国鉄宮原線の遊歩道マップを見せたところ、一気にその機運が盛り上がったのである。

旧宮原線のマップは、地元の小国町役場が熊本県の補助を受けて九州大学大学院に依頼し作成されたもので、デザイン性、情報量共に秀逸である。このマップと同じような物を作る事は難しいが、少しでもそれに近いものが作りたいということが私たちの共通認識であった。

マップの素案が出来上がったので、残りの作業は写真や案内コメントを載せることである。しかし、これが意外と難しい。現地の記憶もまばらであるし、遺構の位置関係も不明瞭である。私たちは、担当地区を三つに分け、再度現地調査を行なった上でマップ作りを行うことにした。

3. 現地調査と案内コメント

11月10日、三班に別れて現地調査を開始。私の担当は中間の地区、佐野町から宇津井町である。佐野町側から北上しながら遺構を調査し、写真を撮影した。

マップに載せるコメントはそれぞれが作成し、班長が取りまとめることになった。以下に私が担当した遺構と案内コメントの一部を記載する。実際のマップに反映されるかどうかは現在のところ未定である。



今福線旧線では、最長の橋梁。円形の橋脚（橋の土台）は流水の影響を小さくするためのもの。全国的には舟形や小判形が多く、意外と貴重な存在です。



5連のアーチ橋は、県道として使用されています。右端には以前第2今福トンネルがありました。現在は切通しとなっています。



5連アーチ橋の南にある第3今福トンネル。路線敷きは舗装されていますが、現在は通行止めとなっています。



今福線アーチ橋群のシボルの存在。コンクリートのアーチ橋は、太平洋戦争による鉄不足の時代に多用されたもの。今福線のアーチ橋群も、その影響を受けていると思われます。



4連アーチ橋を渡り、トンネルをくぐった先の1連のアーチ橋。

4. 現地調査での発見

今回現地調査を行なった際、小さな発見ではあるが、今まで文献に書かれていない事実を発見したのでここに記載する。



「宇津井町の路盤跡」

石見公民館分館の北を民家に入る道があり、その先が路盤の跡と思われる。手前には、サイフォンの跡と思われる構造物もあった。



「橋脚下の石積護岸」

浜田自動車道の橋脚部分は一見普通の河川護岸に見えるが、今福線の路盤跡であると思われる。2段積みの下段には古い石積みが見て取れる。

5. 終わりに

今回の活動で、マップ作りは一応の決着を見ることとなった。12月の段階では、会長及び各班長がマップの取りまとめを行い、地元で提示して修正したあと島根県技術士会のホームページに掲載する予定となっている。

なお、今福線の研究会はもう一年継続することになっていて、マップ作りはまだまだ終わらない。インターネット公開後の要望や意見も取り入れて、より充実したマップを作成することが今後の目標となる。

以上